

# 平成 16 年度事業報告

社団法人 日本滑空協会

## 概要

事業拡大・充実の年として、各事業を協会事業として総括できる体制強化を目指し、滑空スポーツの安全確保・普及、その他分野で活動を拡大・充実させた。

1. 滑空機の改良研究および整備
  - A 滑空機の技術情報の収集
    - a 滑空機運用状況調査
    - b 無線機器の装備、運用状況の調査  
滑空機ならびに無線機器など関連装置の技術情報収集、ならびに運用状況把握を行っているほか、今年度は特に具体的進展はなかった。
  - B 滑空機関連機材の開発運用に関する支援
    - a 初級滑空機の設計・製作への支援及び運用の協力  
実施母体からの問い合わせ等があったが、実行に至るまでには進展しなかった。
2. 滑空指導者の養成と研修の実施
  - A. 指定航空従事者養成施設の運営  
本年度中に 4 回実施、自家用操縦士 10 名を養成した。
  - B. 本年土中に (財) 日本航空協会に対して滑空機公式立会人 2 名および滑空記章試験員 2 名の推薦を行った。
3. 日本選手権の開催ならびに国際大会への選手派遣、推薦
  - A 平成 16 年度開催予定だった当協会主催第 20 回日本滑空選手権大会は 4/16-17,23-24,05 ‘ 於関宿滑空場で実施。諸般の事情で年度を越えて延期実施されたため、本報告では割愛。
  - B 海外での国際大会への出場選手選考の実施ならびに派遣の支援  
当協会が出場を承認した競技会での参加者の成績
    - a クラブクラス世界選手権 (ノルウェー 6/12-26) 9 位 市川展
    - b ポーランド・ナショナル (Leszno 6/26-7/11) 38 位 齊藤岳志
    - c ヨーロッパ選手権 (リトアニア 7/12-8/8) 9 位 市川展 (参考記録)
    - d 女子プレワールド (ドイツ 7/26-8/6) 13 位 廣常朱美
  - C 当協会後援の滑空競技会
    - a 霧ヶ峰グライダー競技会
    - b 第 45 回全日本学生グライダー競技選手権大会 3/5-13,05 ‘ 於妻沼滑空場  
個人：優勝 蒲寛人 (日大)、準優勝 引地航平 (日大)、中野将和 (法政)  
団体：優勝 日大 A、準優勝 早稲田 A、第 3 位 日大 B

- c 第7回全日本学生グライダー新人競技大会 10/2-8,04 ‘於木曾川滑空場  
個人：優勝 大堀宏海（慶應）、準優勝 西島宏幸（名大）、3位 中村兵馬（同大）  
団体：優勝 慶應、準優勝 名大、3位 京大
- d 第44回全国七大学総合体育大会グライダー競技の部 3/14-22 於関宿滑空場  
団体：優勝 名大、準優勝 京大、第3位 東北大  
個人：優勝 嶋澤義大（名大）、準優勝 藤原直樹（京大）、第3位 國澤孝瑛（名大）
- e 第7回東京六大学対抗グライダー競技会 8/22-29,04 ‘妻沼滑空場  
団体：優勝 早稲田、準優勝 慶應、3位 法政  
個人：優勝 里見佑太（慶應）、準優勝 町田清仁（早稲田）、3位 福田由香里（早稲田）
- f 第2回関関同立対抗グライダー競技会 11/6-12,04 ‘於木曾川滑空場  
個人：優勝 早稲田将平（関大）、2位 越智健太郎（立命）、3位 関本泰生（関大）  
団体：優勝 関大、準優勝 立命館
- g 第42回全日本高等学校滑空選手権大会 7/31-8/1,04 ‘於葦崎滑空場（山梨）  
第1部：1位 柳澤健太（日本航空高3年）、2位 和泉知樹（日本航空高3年）  
3位 木本義紀（日本航空高3年）  
第2部：1位 岡崎翼（日本航空高1年） 2位 生田ゆい（日本航空高1年）  
3位 石川真人（日本航空高1年）
- h 第8回原田覚一郎杯大学対抗グライダー競技大会 8/12-20,04 ‘於妻沼滑空場  
団体：原田覚一郎杯 日大B、準優勝 日大A、3位 千葉工大B  
個人：最優秀選手 蒲寛人（日大）、優秀選手 引地航平（日大）、3位 宇田川由紀（千葉工大）
- i エアロパテックジャパン in 角田 10/9-11,04 ‘於角田滑空場（宮城県）  
1位 森中玲子、加藤隆士、鐘尾みやこ（REDFOX）、4位 川合真和（仙台グライダークラブ）

#### 4. 滑空スポーツの安全確保、普及

##### A. 当協会主催滑空活動

- a クロスカントリークリニックの開催 3/25-27,05 ‘於板倉滑空場  
初めての試みとして、22名の応募者から12名を選んでクロスカントリーフライト実技講習を実施。クロスカントリー技術のレベルアップに極めて有効なことを確認した。  
教官：市川展氏、澤田重城氏、染中俊雅氏、丸山毅氏、茂木隆氏、森中祐治氏
- b 初級滑空機の見学と取り扱い体験会“子供グライダー体験教室2004”の開催  
8/21 小山絹滑空場（栃木県）、11/3 葦崎滑空場（山梨県）、11/13 宇都宮市体育館（栃木県）で合計3回実施、延べ300名の小学生高学年以上および保護者が参加、希望する小学生にLAK16プライマリーグライダーのウインチ曳航地上滑走を体験させた。  
指導員：大平雅大氏、菊地光基氏、澤田重城氏、染中俊雅氏

##### B. 当協会主催講演会

下記講習会および上記Aa クロスカントリークリニックで延べ226名が参加した。

- a クロスカントリーセミナー2004 12/4,04 ‘於航空会館  
クロスカントリーソアリングの要素技術についての講演  
講師：市川展氏、澤田重城氏、丸山毅氏

b. 高高度セミナー 1/28,05 ‘於航空会館

防衛庁航空幕僚監部衛生官福島功二氏による低酸素症、低圧、低温の身体への影響の講演

C 当協会後援講演会

a. ポーランド航空スポーツフォーラム 10/12,04 ‘於朝日新聞社講堂

b. 第 10 回スカイスポーツシンポジウム

(社) 日本航空宇宙学会主催 12/11-12,04 ‘於日本大学工学部

4月のウエーブフライトで500km往復速度日本記録樹立者 市川博一氏が特別講演を行った。

c. 公開講座「グライダー・チャレンジ・アンデス 2004」 2/11,05 ‘於万世本店（東京秋葉原）

森中玲子氏、クラウド・オールマン氏が参加してシンポジウムを開催した。

D 安全講習会（国土交通省航空局通達に基づく）の実施

a. 航空安全講習会開催

操縦士協회를事務局として関係5者で連絡会議を持ち本年度25回開催、うち当協会主催

8回、その他団体との共催2回、参加者延1006名、うちグライダー資格者290名。

講習会委員（講師）では、認定講師94名のうち当協会認定が34名。

b. 航空安全講習会開催関連調査

航空安全講習会対象者数の把握のため、全国各クラブの連絡担当者とクラブメンバー数ならびに飛んでいる人の人数を集計。メンバー数総計2830名、飛んでいる人の総計1260名。

5. 滑空場調査・開発・管理

全国滑空場運用状況についての状況把握

6. FAI 滑空機関連業務

A. 国内滑空記章申請、受付ならびに交付業務

1/1-12/31,04 ‘までの各章交付数はA章85件、B章54件、C章49件、銅章26件

B. 2004/2005FAI 日本代表委員：(財) 日本航空協会に当協会理事増谷一夫氏ならびに理事・国際委員長市川展氏を推薦、委嘱された。

2004/2005FAI 医事委員：(財) 日本航空協会に当協会会員嶋田和人氏を推薦、委嘱された。

C. (財) 日本航空協会からの国内滑空記章制度について、4/1,05 ‘日本滑空記章規定ならびに日本滑空記章試験員規定の移管を受け、引継ぎを行った。

D. FAI エアースポーツメダル候補者 当協会会員西山辰雄氏を(社)日本航空機操縦士協会と共同推薦し、9/20,05 ‘(財) 日本航空協会を通じてFAIより授与された。

E. 当協会会員市川博一氏が500km往復速度日本記録樹立(4/20,04 ‘189.49km/h)で、9/20,05 ‘(財) 日本航空協会より表彰された。

7. 滑空機検査業務に関する調査および支援

航空機としての滑空機の耐空性検査を行う業務について(財)日本航空協会 滑空機検査事務局に協力し、当協会会員である耐空検査員が耐空検査実務を遂行してきた。平成16年度末をもって、(財)日本航空協会は国土交通省航空局に事務局業務を返還した。

8. 滑空関係団体の公認

特記事項なし

9. 専門部会の活動

(ア) 総務委員会

事業拡大・充実に伴う業務増大に対応している。

(イ) JSA information 編集委員会

我が国の数少ない滑空関係情報源として、当協会機関紙“JSA information”はNo.260～266を刊行した。一層の質的レベル向上と充実を図った。

(ウ) クロスカントリー・競技委員会

クロスカントリーセミナーおよびクロスカントリークリニックを実施、第20回日本滑空選手権大会の開催準備を行った。(第4項参照)

(エ) 指定航空従事者養成施設運営委員会

国土交通省航空局の委託により、全国の滑空愛好者向けに滑空機操縦技能証明の取得コースを実施(第2項参照)

(オ) 技術委員会

耐空性審査要領第VI部・第X部についてFAR22との整合性について検討を行った。

EASAの設立に伴い、CS22との整合について航空局航空機安全課と調整中。

(カ) 滑空場委員会

(キ) 曲技飛行委員会

(ク) 国際委員会

10. 平成16年度に実施した事務局主催の会議。

総会 定期総会2回 平成16年6月19日、平成17年3月19日

理事会 定期理事会2回 平成16年6月19日、平成17年3月19日

11. 平成16年度の各種助成金

A. 子どもゆめ基金助成金：「子供グライダー体験教室2003」

B. スポーツ振興基金助成金：「競技会開催」

C. 日本航空協会

以上